

社会公益のために貢献してきた団体、個人に贈られる第41回「キワニス社会公益賞」(横浜キワニスクラブ主催)の授賞式が10日、横浜市内のホテルで行われ、児童養護施設の子供たちを支援する団体「横浜雙葉小学校父母の会 高風子供園ボランティア」(同

市中区)が受賞した。同団体の代表、織田真実さん(34)は「限られた時間でも、子供たちのために自分にもできることがある。そんな考えが(この授賞を機に)広まればうれしい」と喜びの言葉を口にした。

(王美慧)

「横浜雙葉小学校父母の会」ボランティアにキワニス社会公益賞

児童施設 真心で支え



キワニス社会公益賞が「横浜雙葉小学校父母の会 高風子供園ボランティア」に授与された。10日、横浜市(王美慧撮影)



児童養護施設「高風子供園」で子供たちのバッグを手作りするなどしている。(提供写真)

平成28年4月の暮る。児童養護施設「高風子供園」(同区)にボランティアで訪れていた織田さんは、廊下を歩きながら、ある「もどかしさ」を感じたという。それぞれの子供部屋には多くのおも

物で満たされなかった。だが、現実はずっと見えていた。子供たちは日常に気が配る必要がなかった。自由な生活しているように見え、子供たちは日常に気が配る必要がなかった。

もめ、バッグを手作りしたり、児童養護施設の「現実」だった。虐待や貧困などを理由に、実の親元を離れて暮らす子供たち。理不尽に「つながり」を断られた子供たちが「必要」として居る。物では埋められない。真心ではないか」と気付かされたという。

同団体は、子供たちの生活がより良くなることを目的に、昭和54年に設立された。父母の会に所属する母親約120人が、自宅や同園に集まって作業をする。

時間と手間をかけ

同園では2〜18歳までの約50人の子供たちが暮らしている。35人の職員が4交代制で24時間、子供たちを見守っているが、一人一人ができる仕事量には限界がある。そのため目を細めた。



キワニスクラブ 世界三大奉仕団体の一つで、「世界の子供たちに奉仕すること」を使命に活動している。現在は世界79カ国に約7千のクラブがあり、約20万人が所属している。日本には35のクラブがあり、横浜は昭和49年に8番目に設立。児童虐待防止活動やコンサート、ボランティア活動を支援するなど、活動は多岐にわたる。

子供園支援で「キワニス」表彰
横浜雙葉小学校父母の会

横浜市中区のボランティアグループ「横浜雙葉小学校父母の会 高風子供園ボランティア」が、今年度の「キワニス社会公益賞」を受賞した。同賞は、奉仕団体「横浜キワニスクラブ」が、地域に大きく貢献した個人や団体を表彰するもので、今年度が41回目。同小児童の保護者らで構成する今回の受賞団体は、同区内の児童養護施設である高風子供園を支援しよう



表彰式に臨む織田さん(横浜市内で)

と、子供たちの衣類の補修やアイロンがけなど、施設職員ではなかなか手が回らない作業を40年近く手がけてきた。現在100人ほどが活動しているという。10日に市内で表彰式があり、代表の織田真実さん(34)が岩野俊一郎会長から賞状を受け取った。

キワニスクラブは米国に本部をおく奉仕団体で、日本では横浜を含め現在計35クラブが活動している。